



現場から（最近のニュースから）

戦いの根本



年末年始にも相変わらず、世界で紛争、戦争が続いているニュースが聞こえて来ました。いつから、そのような戦いがあったのでしょうか。承認欲求について書いてある記事に、人間の戦いの歴史のことが出ていました。

その記事では、承認欲求は人間の血塗られた歴史と関係しているということで、人間がたどってきた過去を振り返っていました。

まず、狩猟採取の時代、人類は小規模な集団（多くは数十～数百人）を単位として生活していたのですが、近年の考古学や人類学の研究によって、そのような小さな規模の集団であっても、仲間同士での殺人率が非常に高かったことが、明らかになっているそうです。多くの考古学的証拠から、人間の死亡要因において仲間による殺害が大きなウエイトを占めていることが研究されています。その理由として、縄張り争いや食料・資源の奪い合い、あるいは群れ内での序列・嫉妬などがあったのだらうということです。農耕によって食料が安定し、飢えの恐怖から解放されれば、人々はもう少し穏やかになるのではないかと考えるかもしれませんが、考古学・人類学の知見は、むしろ農耕時代になって殺人率がさらに上昇した地域が少なくないことを示しているそうです。豊かに食料を蓄えるようになると、富や土地の所有をめぐる対立が生じ、組織化された暴力が増える方向に働いたのではないかとされています。

「仲間殺し」という死因を避けるために、人々はどのように進化したかということ、「噂話や悪口の共有」という特殊な方法を発達させたと言われています。噂話や悪口は、集団内で誰が信用できるのか、誰が危険人物なのかを素早く把握するための「情報交換システム」だったと論じられています。結果として人間の脳は「仲間に殺されないためには常に噂話や悪口に注意を払う」ように進化するようになったということです。また仲間殺しから逃れるため社会的つながりに敏感になるようにプログラムされたので、SNSなどで誹謗を受けたり無視されたりしたときに、まるで“身体的傷害”のような苦痛を感じるのは、脳が「仲間外れ」を生存の危機と見なすようになったからだと思います。そのようにして、「仲間に殺される恐怖」を抱えているので、「仲間から排除されない」ように、SNSで「いいね」（承認）を欲しがるようになったということです。（1月7日ナゾロジー＜承認欲求というのは存在しない＞より）

遠い昔から、人間は争い、殺人をしていて、仲間に殺されないように、噂話や悪口を広めて情報交換をするようになったけれど、それによって悪い存在だと標的にされる恐怖から、他の人に認められることを求めるようになったということでしょうか。では、なぜ昔から戦いが起きるしかないのでしょうか。それは、すべての人が、自分が良ければ良いと思う本質を持っているからです。その本質が悪いというのではなく、そのように自分しか分からなくなった理由を知るとき、それによって生じる争いや憎しみだけではなく、恐怖を持つことから解放されます。なぜ人間は自分しか分からなくなったのでしょうか。それについてお分かちしたいことがあるのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」